

令和2年度 支部活動等助成事業報告書



大阪生活サポート協会

はじめに

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会（以下、「大阪生活サポート協会」）は、会員が直面するかもしれない様々な危険に対しての総合的な補償制度（AIG 普通傷害保険）と各種事業によって、会員一人ひとりが権利の主体者として「その人らしく輝いて生きる」ための支援を行っています。

新型コロナウイルスが令和2年1月にわが国で確認されて以降、感染拡大防止のため、会員の皆さまをはじめご家族及び支部（施設等）におかれましては、「我慢の生活」を強いられている状況にあります。一日も早く「我慢の生活」から解放されることを切に願います。

＜令和2年度の支部活動等助成事業＞について

○29支部からの申請があり、25支部への助成決定したにも関わらず、コロナ禍の下、事業実施に至らず、3支部の辞退がありました。「支部活動等助成事業の報告」を読ませていただきますと、いずれの支部におかれても事業実施の際、コロナ禍の影響がありご苦労の様子が窺えます。

○令和2年度限定で、「コロナ支部見舞金」と「エンジョイ支部助成金」を設けました。

コロナ支部見舞金は、感染リスクの中、日夜奮闘していただいている支部（施設等）へ、エンジョイ支部助成金は、外出など外部との触れ合いを制限されている会員の皆さまの施設等の生活が「楽しく、豊かに」なることを目的とした支部への助成金であります。

合わせて12支部に助成しました。

＜事業計画を立てる際に対象者別に事業内容を考えることはどうでしょうか。＞

① 会員参加の事業～いろんな経験を重ねてエンパワメントの機会とする。

② 会員を取り巻く環境へのアプローチ

人的環境～家族、支部の支援者、地域住民などへの支援

社会環境～施設等の在る、或は会員の暮らす地域での防災ネットワークづくり、法人間の連携・協働 など

③ 地域共生社会実現への一歩となる活動

障がいのある人がサービスの受け手にとどまらず、地域の中で双方向の関係性の生まれる活動を「小さくてもよい」「ちょっと頑張ればできる」ことから考えてみる。

＜次のような企画は如何でしょうか。＞

○会員参加の支援～表現活動支援、余暇支援、外出支援など～

コロナ感染状況を鑑み企画をしていただきたい。ワクチン接種が進み、状況の変化があれば会員参加の企画を考えてみませんか。

○家族支援～権利擁護、成年後見制度等について（研修、何でも相談会など）

多くの会員の皆さまはご家庭から地域の日中活動の場である施設等へ毎日通所しています。1年・365日の間には会員とご家族の間でトラブルがあります。特別なことではないのです。どのご家庭でも起こりえます。時には深刻な状況になってしまうことがあります。障害者虐待防止法にある養護者による虐待のおそれがある事態にまで発展する事例もあります。

○支援者支援～知識を深めたり、スキルアップ研修など～

事故等に対する危機管理については、より質の高いサービスの提供があらゆる事故を回避する一歩であると認識しています。事故はどこの施設等においても発生します。当該施設だけの問題ではありません。

各施設等においては、支援者の確保・定着が困難であり、コアとなる支援者の育成には時間を要し、人材育成の困難性を実感しています。いかなる理由があろうとも、我々関係者は一人ひとりの安全・安心なくらしの確保に努めなければなりません。

支部活動等助成事業は平成22（2010）年度から始め、今年度は12年目です。どうかこの事業を大いに活用いただきますよう、お願い申し上げます。

令和3年7月吉日

一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
理事長 安本 伊佐子

目次

はじめに

I 支部活動報告

1 (社福) ユウの家	チャレンジハウスどんどん……………	1
2 (NPO) サポートグループ ほわほわの会		
	サポートグループ ほわほわの会 ……	2
3 (社福) 八尾すずらん福祉会	ワーク・すずらん……………	3
4 (NPO) ネクスト	共生型放課後等デイサービス はぐはぐ …	4
5 (社福) 風の会	風の会……………	5
6 (社福) 大阪聴覚障害者福祉会	あいらぶ工房……………	6
7 (社福) 北摂杉の子会	萩の杜……………	7
8 (NPO) リバティ・のぞみ	てんとう虫 ……	9
9 (社福) バオバブ福祉会	えるで……………	10
10 (社福) 草の根共生会	蓮Ⅱ……………	11
11 (社福) 池田芽ばえ福祉会	東山作業所……………	12
12 (NPO) ダ・カー歩	ダ・カー歩……………	13
13 (社福) コスモス	ふれあいの里かたくら……………	14
14 (社福) 恵生会	四季の森……………	15
15 (NPO) いちばん星	いちばん星……………	16
16 (社福) さん・すまいる	さん・すまいる……………	18
17 (社福) 友遊福祉会	友遊の里……………	20
18 (社福) 路交館	桜の園……………	21
19 (合同会社) 美ノ倉	やすらぎの苑 中津 ……	22
20 (社福) 大阪府障害者福祉事業団	こども発達支援センター S u n ……	23

2 1 (社福) いわき学園	住之江木の実園……………25
2 2 (社福) 障友会	わららか草部……………27

Ⅱ 資料

令和 2 年度支部活動等助成事業実施要項
令和 2 年度支部活動等助成事業実施支部一覧
大阪生活サポート協会の理念と事業

●表紙作品 村田 貴子 (和泉の里)

令和2年度 支部活動等助成支部事業報告

(各支部報告は原文のまま記載)

I 支部活動報告

1 支部名： チャレンジハウスどんどん

- ① 実施日：令和2年10月1日（木）
- ② 実施場所：チャレンジハウスどんどん内 食堂
- ③ 対象者：利用者22名、職員12名、計34名
- ④ 実施概要・目的

「事業所内におけるコロナ感染症予防対策」の実施

世界的・全国的なコロナ感染流行を受けて、当事業所でもマスク着用・手指消毒・手洗い・検温・車両や備品消毒・密を避ける活動の配置を徹底しているが、毎日20名前後の利用者が通所され職員10名前後で合計30名ほどが集まる中、食事の際にはどうしても向かい合わせに座らざるをえない環境がある。食事時にはマスクを外して話すこともあり、飛沫を予防したく透明パーテーションの設置を行った。

⑤ 成果

透明パーテーションで食事の様子がうかがえ、飛沫予防ができるようになった。

⑥ 今後の展望

分割式で作っていただいたので、机配置が変形しても利用できる。いろいろなシチュエーションに対応できることでコロナを含む感染症の飛沫感染を予防できると予測される。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	透明塩ビパネル	92,000
自己資金	32,000	支持脚	25,200
		搬入諸経費	2,800
		消費税	12,000
計	132,000	計	132,000

2 支 部 名： サポートグループ ほわほわの会

- ① 実 施 日： 令和2年10月1日（木）
- ② 実施場所： NP0法人サポートグループ ほわほわの会 ほわほわセンター
- ③ 対 象 者： 医療的ケア児とその家族（モデルとして）、和泉市保健所地域保健課職員
ほわほわセンタースタッフ、普段モデルのケアに当たっている学校職員・看護師・ヘルパー、モデル居住地のコミュニティーソーシャルワーカー 計18名

④ 実施概要・目的

「発電機の整備」

災害時に当法人が地域のインフラとして機能を果たすため、その第1弾として発電機を購入・設置。実際に被災した場合に地域で生活されている医療的ケアを必要とする方々が継続して医療的ケアを受けられるよう、協力体制を地域の中で構築することを目指している。この日は地震が起こって停電した場合を想定し、普段医療的ケアを受けている方をモデルとして参加していただいて、発電機を実際に使用しながら医療的ケアをおこなうことで、被災した場合のイメージを持つ。

⑤ 成 果

当事者、支援者、受け入れ施設などのさまざまな立場の方が参加したことでいろんな課題が見えた。また、実際に発電機を使用したことで、地域に整備があることによって大きな安心につながるということがわかった。発電機の使用方法は準備も含めて簡単に緊急時でも使用しやすい。

⑥ 今後の課題

今後も、さまざまな場面を想定しての訓練をおこなう予定。参加者もコミュニティーソーシャルワーカーから地域の民生委員などに広めていき、広い地域で防災の取り組みをおこなうきっかけにしていきたい。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	発電機	102,850
自己資金	95,190	防災士資格取得費用	62,340
計	165,190	計	165,190

3 支 部 名：ワーク・すずらん

① 実 施 日：令和2年10月9日（金）

② 実施場所：ワーク・すずらんの倉庫常設

③ 対 象 者：職員及び利用者 全員

④ 実施概要・目的

「発電機」の整備

災害時の備えとして発電機を設置。八尾市と避難場所としての提携もしているので、いざという時に電気が使えるようにしておく為。

⑤ 成 果

今まであった発電機が古くなり、いざ発電機を動かそうとしても中々エンジンをかけることが出来ずに苦勞していました。いざという時にすぐに使えないと、防災の備えとしては意味がないので今回は「発電機」を希望させて頂きました。新しいものはエンジンもすぐにかかり、女性職員でも簡単に使えるのでとても良いものだと思います。また、ワット数も前回のものより大きいので、大量の電気が必要になっても対応が出来ると思います。

⑥ 今後の展望

今後起こるであろうといわれている「南海トラフ」などに備えて防災の設備はとても重要なものになってくると思います。今回、購入させていただいた「発電機」を使用して、作業所の防災訓練などでも使用して誰でも使えるように練習をしていきたいと思います。また、こういった状況で「発電機」が使えるのかという事も作業所の防災研修などを通して、職員・利用者共に勉強を行っていざという時に焦ることなく落ち着いた行動を取れる様にしておきたいと思います。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	70,000	発電機	102,999	
自己資金	32,999			
計	102,999	計	102,999	

4 支 部 名：共生型放課後等デイサービス はぐはぐ

① 実 施 日：令和2年10月25日（日）

② 実施場所：Zoomにて、各ご家庭で視聴

③ 対 象 者：保護者・お子さん・教育に携わっておられる方等、参加家庭 52

④ 実施概要・目的

「楽しく学ぶ性教育（Zoomを使つての講演会）の開催

- ・正しい性についての知識を学ぶ機会の提供。
- ・命の尊さを理解し、何でも話し合える家族関係の大事さをわかる。

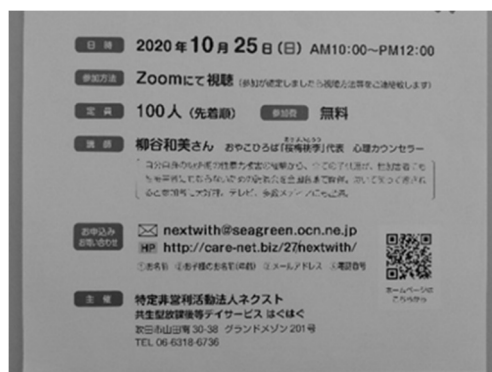
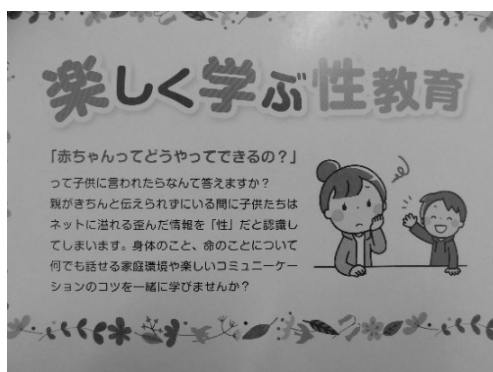
⑤ 成 果

当日、52のご家庭の参加があった。（申し込みされ、当日都合で参加できなかった方は11月10日～視聴可）普段なら参加しにくいご家庭の方も、Zoomというコンテンツを使う事で、お子様と一緒に見ていただけた。

性教育は大切だという認識はたくさんの方がもっておられるが、どのように伝えていけばいいのか悩んでおられる方も多い。講演を通じて、家族で考えていただく機会となった。今回、講演後アンケートをとらせていただいた結果、楽しく学べた・わかりやすかったとの感想をいただいた。

⑥ 今後の展望

今後も定期的に性について学ぶ機会を提供していく。法人として年間計画に入れていく。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	67,000	講師料	50,000	
自己資金	2,736	ちらし印刷費	2,113	
		ちらしデザイン等	12,650	
		事務費等	5,000	
計	69,763	計	102,999	

5 支 部 名：風の会

- ① 実 施 日：令和2年11月18日（水）（予定）12月15・25日、令和3年1月20日
- ② 実施場所： 法人施設玄関前スペース（八尾市八尾木東3-9）
- ③ 対 象 者：一般近隣住民、施設利用者 延べ約50名
- ④ 実施概要・目的

「地域交流行事用テント・机」の購入

地域住民と施設利用者の「交わり」を深め地域の中の施設づくりを目指し施設をよく知っていただくため、バザーなどのイベントを開催し地域貢献できることを目的とする事業。一番身近で交流ができ障がい者施設ではこんなことをしているんだと知っていただくためにバザーの催しが気軽に来ていただけるのかと思い、施設で栽培収穫している野菜・手作りしているクッキー、授産品などの販売、また焼きそばや綿菓子などの露店販売も実施しました。そのための近隣への案内ビラの配布やホームページへの掲載、店頭でのポスターなどの宣伝活動を実施、周辺からバザーをしていることがわかるように購入させていただいたテント、机を設置し目立つように会場づくりをし、遠目からでも何かイベントが行われているぞと足を止めてもらえるような設営が可能になりPOP広告を貼ったり多様なことができました。

⑤ 成 果

助成金事業で購入させていただいた簡易テント、テーブルのお陰で周辺からもよく目立つ会場づくりができるようになりテーブルも受付、販売用と分けて使用することができました。以前と比べテントを立てることでイベントが大きく見え、遠くからでも周知でき、多くの方が足を運んでくれました。またテントのまわりにPOP広告を貼って宣伝することで何を売っているのかもよくわかり雰囲気作りにも最適で、来られたお客様にも印象に残る会場設営ができ、次回はいつですかと声をかけていただきたり、大盛況でおこなうことができました。今後おこなう予定のイベントにも工夫したスペースが作れると大切なアイテムになっています。

⑥ 今後の展望

- 遠くからでも周知でき目立つ会場づくりができる。
- 飲食の販売や受付の際は特に利用の頻度が増え役立っていく。
- 天候に左右されずイベントができる。（雨天時でも開催できるなど）
- 3台のテントがありイベントが重なっても分けて使用できる。



⑦ 収支報告

＜収入＞		＜支出＞		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	150,000	ワンタッチテント 3台	113,700	
自己資金	2,257	送料	1,150	
		テント名入れ	11,040	
		折り畳みテーブル 3台	26,367	
計	152,257	計	152,257	

6 支部名： あいらぶ工房

① 実施日： 令和2年10月23日（金）

② 実施場所： あいらぶ工房

③ 対象者： あいらぶ工房利用者、職員 計51名

④ 実施概要・目的

「レクリエーション」の実施

一泊旅行を企画していたが新型コロナウイルス流行のため、施設内行事に変更した。重複障がいのある利用者同士、お互いに助け合い、交流を深め、感染症予防に努めながら、日本一周旅行をテーマに楽しい時間を過ごした。

⑤ 成果

重複障がいのある利用者同士、日頃作業班が異なる支援員と交流を深めることができた。また、集団行動や社会性を育むことができた。

⑥ 今後の展望

今回の行事で育まれた集団行動の力や互いに助け合う心、社会性を大切に、今後の支援に繋げていきたい。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	昼食代	168,300
自己資金	157,885	レクリエーション会場設営費	50,443
		レクリエーション雑費	5,409
		衛生用品 消毒用アルコール	4,968
		衛生用品 ペーパータオル	4,565
		衛生用品 フェイスガード	24,200
計	257,885	計	257,885

7 支部名：萩の杜

① 実施日：令和2年10月26日（水）

② 実施場所：萩の杜、ふれっとなさはら、ジョブサイトひむろ、ふれいすBe

③ 対象者：施設ご利用者・職員・地域のお客様 合計 304 名

④ 実施概要・目的

「北摂杉の子会ランチフェスタ2020」の開催

法人が所有する農園で採れた野菜を使い、「ランチフェスタ」を開催する。

前年度は、この活動を通して地域の方々との交流を兼ねたイベントを開催したが、感染症拡大防止のため、大規模イベント開催が困難なことから、以下の方法でおこなう。

- ・法人3施設のご利用者、職員、施設内カフェのお客様分（計約300食分）の給食として、農園産野菜を使った料理を提供する。

- ・季節の秋野菜を取り入れ、彩り良く栄養バランスの良い献立を、法人栄養士が立案する。

- ・通常の給食と差別化をはかるため、非日常的な弁当容器に盛り付ける。

- ・法人内事業所の授産品も献立に取り入れ、ご利用者の勤務意欲向上につなげる。

- ・コロナ禍でありながらも、衛生面・安全面に配慮したイベントを開催し、ご利用者の楽しみにつなげられる工夫をする。

⑤ 成 果

- ・非日常的な豪華なお弁当を召しあがっていただく事ができ、多くの方に喜ばれた。
- ・完成した弁当やご利用者の食事風景を記事にして、法人全事業所に配布することで、関わって頂いた全ての方に感謝の気持ちを伝え、関係性向上につながった。
- ・コロナ禍でありながら、農園産物を活かした安全なイベントを、実施できた。

⑥ 今後の展望

法人内栄養士が連携しておこなう「ランチフェア」は、2 回目の開催である。その時の情勢に合わせた安全で楽しいイベントを、毎年企画立案している。これからも大規模な集客型のイベントを、毎年立案難しい情勢になることが予想されるが、今後もご利用者の楽しみと地域の方々との交流を兼ねたイベントを、時代に合わせた安全な方法で検討していきたい。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	給食材料費	43,694
自己資金	8,294	野菜	50,094
給食費（利用者徴収）	106,392	デザート	58,200
		コロッケ	15,000
		お弁当箱	36,300
		紙コップ容器	550
		お茶パック	5,918
		包装紙、カップ等	2,860
		ボランティア食事代	2,070
計	214,686	計	214,686

8 支 部 名：てんとう虫

- ① 実 施 日： 令和2年12月24日（木）
- ② 実施場所： てんとう虫 施設内
- ③ 対 象 者： 利用者21名 職員16名 計37名
- ④ 実施概要・目的

「クリスマス会に代わる食事会」の開催

令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響で軒並み年間行事が中止になったため、例年開催していた「クリスマス&三者懇親会」に代わって食事会をおこない、利用者様にクリスマス会の雰囲気を楽しんでいただくものです。綱引きゲーム、サンタのプレゼント、クリスマスDVD、音楽、食事を通して楽しんでいただく。

⑤ 成 果

- ① 全員にこの企画を通してクリスマスの雰囲気を楽しんでももらいました。
- ② 普段と違った企画で利用者の様子などを観察する事ができました。
- ③ 事業所職員のより一層の利用者支援に対しての団結ができました。

⑥ 今後の展望

まずは新型コロナウイルス感染症の感染対策を出来る限りおこなう。
新しい生活様式のもと事業運営の向上と利用者支援の向上を目指します。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	50,000	食事・飲食代	37,480
自己資金	1,640	紙コップ、紙皿	770
利用者負担金	20,700	クリスマスプレゼント	18,480
		ゲーム景品	5,656
		装飾費	9,954
計	72,340	計	72,340

9 支 部 名：えるで

- ① 実 施 日： 令和2年12月19日（土）
- ② 実施場所： 第1えるで食堂、第2えるで食堂
- ③ 対 象 者： 利用者51名 スタッフ18名 ボランティア9名 計 78名
- ④ 実施概要・目的

「バオバブクリスマス会」の開催

今年度は、コロナ禍の影響で、恒例の一泊旅行や地域との交流イベント、地域行事への出店など、楽しみにしていた様々な活動の中止を余儀なくされました。そんな中ではありますが、コロナに負けることなく、楽しく元気にクリスマス会を行いましょう。

〈概要〉

10：00～ クリスマス会開始

10：10～ ボランティアさんの出し物（マジック）

10：50～ 全体写真

11：00～ ボランティアさんの出し物（紙芝居、じゃんけんゲーム、サンタさんからのプレゼント）

11：50～ 乾杯、昼食

12：40～ メンバーさん（利用者さん）の出し物（ハンドベル、歌、ピアノなど）

13：10～ ケーキ

13：30 終了

⑤ 成 果

例年であれば全員集まっておこなうクリスマス会ですが、開催2週間前に大阪府より緊急事態宣言が出されたこともあり、2カ所に分散しておこなうこととしました。他にも、できるメンバーさんにはマスク着用を徹底してもらい、こまめな換気や手洗い、消毒を行いながらのクリスマス会となりました。

毎年、クリスマスランチはボランティアさんたちの手作りでしたが、感染症対策の観点から今年は手作りしてもらうことができませんでした。しかし、助成金があったおかげで、すべてをテイクアウトにすることができ、メンバーさん（利用者さん）達もピザやチキンをととても喜んでいました。

じゃんけんゲームでは、じゃんけんの手の動きが難しいメンバーさんにはグー・チョキ・パーのプラカードを用意して参加できるように工夫したり、いつも集団への参加の難しいメンバーさんがボランティアさんの機転で飛び入り漫才でステージに立つことができたり、自分たちで作った楽器を使って演奏して盛り上がったり・・・メンバーさんの新しい可能性や生き生きとした姿を実感できる時間となりました。

⑥ 今後の展望

毎年10月～12月にかけて地域の小学校・中学校の見学や交流があります。2年前には、地域の子供たちと一緒にクリスマスの飾りを作り、クリスマス会の当日にはそれを飾り付けてクリスマス会をおこなう等の取り組みをしました。今年度はコロナの影響でできませんでしたが、今後も地域とのつながりを大切にした活動を行っていきたいと考えています。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	ピザ	25,788
自己資金	6,794	チキン、ケーキ、食材等	53,207
		お菓子・飲料	6,671
		飾りつけ	2,640
		プレゼント	15,958
		紙皿等	2,530
計	106,794	計	106,794

10 支 部 名： 蓮Ⅱ

① 実 施 日： 令和2年12月4日（金）

② 実施場所： 蓮Ⅱ パン販売店舗「ほっぺ」

③ 対 象 者： 地域住民の方々（「蓮Ⅱ」の広報及び製品の販売）

草の根利用者（店舗での接客販売など「仕事」の楽しさや収入の向上）

④ 実施概要・目的

「利用者の授産活動及び事業所の地域活動の促進につながる機器」の購入

店舗に冷蔵ショーケースを設置し、ドリンクの販売をおこなうことで、接客係の利用者も、新しい商品の説明などに意欲を持つ機会となり、仕事に対して楽しみやモチベーションを持ってもらう。また多彩な商品で集客を狙い、利用者の給与の向上にもつなげたい。そういった活動を、地域の方々にも知ってもらい、地域に根差した障がい者の活動拠点としての基盤づくりを行っていききたい。

⑤ 成 果

今までに比べて、より店舗らしくなり、利用者が「お店で働く」という実感を持ってもらうことができた。集客については短期では効果がわかりにくい面があるので、今後につなげたい。

⑥ 今後の展望

コロナ禍のなかで低迷していた店舗への集客を少しでも回復していく。

ジュース販売を通して、商品の販売や補充など利用者が意欲を持てる仕事を創造してい

く。そのなかで利用者にとって役割に見合った対価としての給与を得るという実感を感じてもらふ。店舗の宣伝については、続けて近隣のポスティング、ホームページのブログでの宣伝などを行っていく。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	77,000	卓上型冷蔵ショーケース	82,899	
自己資金	5,899			
計	82,899	計	82,899	

1 1 支 部 名： 東山作業所

- ① 実 施 日： 個室設置訓練 令和2年12月24日（木）、令和3年1月20日（水）
発熱者対応訓練 令和3年1月21日（木）

- ② 実施場所： 敷地内芝生

- ③ 対 象 者： 個室設置訓練・・・スタッフ14名
発熱者対応訓練・・・利用者10名 スタッフ10名

- ④ 実施概要・目的

「感染拡大防止対策・災害時避難対策」の実施

新型コロナウイルスやインフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症について、事業所内での感染拡大防止対策の実施、災害時避難スペースの確保。

感染症の疑いのある利用者は疾病時に医務室で静養しているが新型インフルエンザ流行時やノロウイルス流行時には発熱や嘔吐者が複数名発病するため、対応できるスペースの確保とした。新型コロナウイルスの疑いや濃厚接触者の疑いがある際に集団感染拡大防止の観点から一時的に収容するシェルター、簡易ベッド、簡易トイレの整備を行なうことで安心して静養できる個室を確保していく。

⑤ 成 果

設置訓練については全職員が設置できるように2回開催した。

ベッドや簡易トイレも説明書を読まずとも設置できるようになった。発熱者対応訓練については利用者に説明後、理解され訓練を受けられていた。消毒や防護服に驚かれる表情もあったが今般の情勢を何となくではあるが理解されているのか、特に混乱なく取り組めた。

⑥ 今後の展望

新型コロナウイルス感染についてはまだ先行きが不明瞭なため発熱時には経過観察も含め一時収容に使用していく。陽性者と濃厚接触者かどうかの判断を仰ぐまでの活動室として使用できることが分かった。できる限り障害福祉サービスを事業継続していくための代替環境として使用していく。今回だけでなくあらゆる場面を想定し継続して訓練を行っていく。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	ポータブルベッド ×2	82,899
自己資金	20,780	ワンタッチルーム・インスタントトイレ	8,580
		四脚テント ×2	42,680
		サイドシート×2	37,400
計	120,780	計	120,780

12 支 部 名： ダ・カー歩

① 実 施 日： 令和2年11月13（火）・20日（金）

② 実施場所： 服部緑地 バーベックマルシェ

③ 対 象 者： 事業所利用者23名 職員15名

④ 実施概要・目的

「慰労会」の実施

障がい者のコミュニケーション能力の向上の為、毎年年末に利用者さんと職員全員で慰労会を行っており、例年であればレストランでバイキング形式にて開催しております。

た。本年度はコロナウイルス感染防止対策の一環として、広い会場を貸し切りにし、お弁当形式にて開催予定でしたが、やはりそれでも色々不安な声もありましたので、2班に分かれ2日間で野外にて開催可能なバーベキューに変更致しました。

⑤ 成 果

久しぶりに皆での行事であり、又、野外の広い場所での開催であった為、参加された利用者さんは本当に伸び伸びと食事や広場での遊びに楽しい時間を過ごすことが出来ました。

⑥ 今後の展望

今後についても、コロナ感染症予防に万全を期しながら、集団での行事を通し、利用者さんのコミュニケーション能力向上や、ストレスを溜めないような行事をおこなっていければと思います。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	133,567	会場費等 2日分	120,960
自己資金	0	バーベキュー食材費	8,597
		交通費・駐車代	4,010
計	133,567	計	133,567

13 支 部 名： ふれあいの里かたくら

① 実 施 日： 令和3年3月11日（木）（避難訓練時、利用者に説明）

② 実施場所： ふれあいの里かたくら施設内

③ 対 象 者： 利用者79名 職員59名

④ 実施概要・目的

「防災備品（段ボール製パーテーション・災害用毛布）」の購入

事業所では計画的に防災備品の購入を行っているが、今回災害時など緊急時に、医療的処置などでもできる空間の確保と体温調整が困難な利用者や地域の高齢者にも活用できることを目的に段ボール製パーテーション・災害用毛布を購入した。避難訓練実施時に

各作業班に職員が巡回し、「災害用毛布」の説明を行った。「段ボールパーテーション」については職員で組み立てて試作を行った。

⑤ 成 果

「非常用毛布」については、以前より体温調整が困難な利用者がいることや、利用者からは「寒い時の避難が不安」という声があった。備蓄していることを伝えると喜んでいて。備蓄場所を確認し、安心した様子だった。

「段ボールパーテーション」も避難訓練時に実演する計画であったが、班ごとの避難行動であったため、今回は時間が取れないと判断。職員で試作を行った。

⑥ 今後の展望

「段ボールパーテーション」については組み立ても簡単で短時間で出来上がるので職員会議等を利用し、順次、職員間で伝達を行い、災害時には活用できるように備えておきたい。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	70,000	災害救済用毛布 (10×2ケース)	48,000
自己資金	17,600	段ボールパーテーション	39,600
計	87,600	計	87,600

1 4 支 部 名： 四季の森

① 実 施 日： 令和3年3月18日 (木)

② 実施場所： 四季の森 ピロティエ

③ 対 象 者： 利用者51名 (内ショート利用2名) 職員38名 実習生2名 計91名

④ 実施概要・目的

「施設内にて気分転換を図る食事提供」の実施

コロナ禍において施設内での楽しみとして、ランチとキッチンカーの2部編成で企画しました。1部では北海道フェアランチとしてラム肉丼、じゃがバター、コーンスープ、夕張メロンゼリーを提供しました。2部はキッチンカーに来ていただきクレープとドリンクの提供をしました。

⑤ 成 果

北海道フェアランチの中のラム肉は初めて食べる方がほとんどで、どんな味がするのか興味を持たれていました。日頃、食べることのできない食材は良い経験となり思い出に残るメニューとなりました。ピンク色のキッチンカーはとても可愛く、利用者さんの注目の的で、そこから注文したクレープやドリンクが出てくると大興奮でした。

コロナウイルスの流行において思い通り外出が出来ない日が続く中、感染リスクを最小限に抑えた企画が出来たのは大変良かったと思えるひとつです。

利用者さんの様子としては「自分で頼めました」と笑顔で話される方や、はじめはブラックコーヒーと言われていましたが、途中より「やっぱりミルク 1 個と砂糖を 2 本欲しい」と希望する方もいました。また、ガヤガヤした空間が苦手な方も慣れ親しんだ施設内のピロティーにおいて楽しむ事が出来たのも良かった。

今回の企画の中で他にも日頃、うかがえる事の出来ない利用者さんの様子や仕草の発見が多数あり良い機会をいただいた事を感謝いたします。

⑥ 今後の展望

施設で生活される中で、より多くのリフレッシュできる機会を提供できるよう努めて参ります。その為にも選択できる機会や自己決定できる場面を増やしていきたいと思えます。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	100,000	昼食の追加材料 (ラム肉)	34,740
自己資金	13,940	キッチンカー	79,200
計	113,940	計	113,940

15 支 部 名： いちばん星

① 実 施 日： 令和 2 年 12 月～令和 3 年 3 月 19 日 (金)

② 実施場所： 東大阪市岩田 5 丁目 8 番 13 号 就労継続支援 B 型 新星 付近

③ 対 象 者： 利用者・職員・作業所周辺の地域の住民の方 延べ 50 名ほど

④ 実施概要・目的

「地域交流会」の開催

就労継続支援B型の移転に伴い、作業所が地域に馴染むことや通所する障がいのある人が当たり前で地域で生活していることを認知してもらうことを目的に、地域住民との交流会を企画しました。しかしコロナ禍の中、交流会の開催はなかなか難しく、判断に迷いながらではありましたが、規模を小さくして交流会を企画しました。また、交流会の開催の他に、地域住民のお宅1件1件を回り、当法人名を入れた記念品（ボールペン・クリアファイル、タオル）をお配りして交流を図りました。

⑤ 成 果

日頃の取り組みとして、地域住民へのこまめな挨拶や、大なり小なりご迷惑をおかけした時には即日謝罪にお伺いするなど、日頃から地域住民と関わりあうことを大切にしています。

今回、交流会は規模の小さいものになってしまいましたが、記念品を用意し、地域住民1件1件を回ったことで、作業所の存在を知ってもらえ、また顔を覚えてもらったことで障がいのある方が地域にすることがごく普通のことであること、何かあっても作業所がすぐに対処できる体制であることを理解してもらえる機会となったと感じています。また、自治会にも加入して自治会長や各部会の会長さんにも挨拶できたことで、より地域で生きる作業所として認知を深めてもらえたのではないかと感じています。交流会は大家さんやごく近所の住民、作業所職員管理者、利用者代表がそれぞれ出席して交流会を行いました。規模は小さいものではありましたが、様々な話をする中で作業所をより身近なものに感じ、信頼関係を築いていくことができつつあるのではないかと、感じています。

⑥ 今後の展望

今後も作業所が地域に更に馴染み、受け入れてもらうための努力は怠らずやっていく所存です。日頃の挨拶を丁寧に積み重ね、何か気になることがあれば連絡してもらえる関係づくりを今後もしていくことで、障がい者の作業所が地域に馴染み、作業所に通所する障がいのある方の存在も認知してもらえるよう今後も信頼関係の構築に努めたいと思います。そして、まずは身近にいる障がいのある方を認知してもらえることが、全体の障がい者理解に繋がり、理解啓発の役割を果たしていくことに繋がると感じています。



⑦ 収支報告

＜収入＞		＜支出＞		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	70,000	広報チラシ作成費	8,788	
自己資金	23,643	切手購入代	13,600	
		飲食代	15,178	
		粗品購入代	56,077	
計	113,940	計	113,940	

16 支 部 名： さん・すまいる

- ① 実 施 日： 令和3年3月20日（土）
- ② 実施場所： 障害者生活介護 さん・すまいる
- ③ 対 象 者： 利用者15名・職員10名・地域住民30名 計55名
- ④ 実施概要・目的

「さん・すまいる祭」の開催

利用者が販売活動を通して、地域の人達と交流

地域の方々に日常生活を通して障がいの理解と啓発活動

利用者同士、共同で取り組む経験

⑤ 成 果

昨年度新型コロナウイルスの感染拡大により祭を中止しました。今年度は、ぜひ開催しようと8月31日の会議で決定し、校区福祉委員会とも話し合いを重ねていました。新型コロナの感染者が急増し緊急事態宣言が再宣言されたことにより、校区福祉委員会、高齢者施設（第2なごやか）、小学校PTAとの共催の地域祭は中止という事になりました。障害のある利用者にとっては販売などの経験を狭めることにもなり残念なことです。そんな中、地域の方から「残念です」「楽しみにしていたのに」などの声もあり、コロナウイルス感染拡大防止対策を強化し所内で縮小してお祭りを開催しました。どんなお祭りにするか自分たちで話し合い、事前に看板を作ったり昼休みには模擬店の食べ物チケットに絵を描いたりして準備を進めました。内容は、変更し午前

模擬店、午後はゲームコーナーで祭りの雰囲気を楽しみました。

◎地域交流会では、自治会に焼きそばチケット 30 枚配布、マスクや自主製品の販売のお知らせ等をし、時間限定で来ていただき焼きそばも持ち帰りしていただき、利用者が販売活動をおこなうことができた。地域からも自粛生活が続き、楽しみが減っているので、今回声をかけてもらえたことがうれしいという声を頂いた。

◎お祭りをミニにし、形態を変えたことで自分たちで模擬店準備も行い、焼きそば・ベビーカステラ・おむすび・ホットドッグ作りに取り組めた。チケットでそれぞれがコーナーに行き欲しいものを選ぶことで、共同で作る取り組みと自分で選ぶという取り組みの両方を体験することができた。

◎感染防止としてフェースシールド・マスクの着用、手洗い・アルコール消毒などを行い模擬店では 1 列に並びソーシャルディスタンスを心がける。会食については、食べるテーブルも対面にならないよう配置し、ルールを守ることができた。

◎午後のゲームコーナーでは順番待ちやいろいろなゲームに取り組むことができ楽しめた。

⑥ 今後の展望

地域の方々との交流は継続していきながら、経験を広げていきたい。地域の中の施設として何が出来るか模索していきたい。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	131,143	模擬店食材	10,842	
自己資金	0	アルコール・除菌シート	12,332	
		養生シート（床用）	12,980	
		レンタル用品（ゲーム）	56,271	
		ゲーム用景品	13,236	
		雑費	25,482	
計	131,143	計	131,143	

17 支 部 名： 友遊の里

① 実 施 日： (1) 雑貨作成

令和2年9月1日（火）から令和3年3月31日 まで継続的に実施

(2) 販売会

令和2年9月1日（火）・12月4日（金）の計2回実施

(3) 展示会

令和2年11月1～6日・令和3年3月16日（火）の計2回実施

② 実施場所： (1) 友遊の里

(2) 高槻市役所・アルプラザ アクトアモーレ

(3) 高槻市ギャラリー アートデアートビュー・cafe fika

③ 対 象 者： 友遊の里利用者及び販売会・展示来場者 約 120 名

④ 実施概要・目的

「ブランディングとマーケティング」の実施

当事業所のある檜田地域は2018年の台風21号による倒木被害を受け、いまだに復興途中です。この倒木を利用した授産製品を製造し、当事業所のご利用者様の所得の向上や就労機会の提供、この授産製品を通じて復興に関する啓発をおこなうために下記の事を行いました。

- (1) 倒木被害の情報発信・・授産製品のwebサイトを立ち上げ定期的に情報発信を行いました。
- (2) 就労機会の提供・・ブランドを立ち上げ、倒木を利用した授産製品の製造をしました。
- (3) 所得向上・・販売会に参加し、製造した授産製品を販売することで所得向上へつながりました。
- (4) 復興支援（啓発）・・展示会や販売会で来場された人たちに倒木被害の現状を伝える機会を設けました。

⑤ 成 果

工賃向上コンサルタントと協議して「natural lab」のブランド化と授産製品の企画マーケティング戦略の立案をしていただき、授産製品のwebサイト (<https://natural-lab.jimdofree.com/>) を立ち上げて「natural lab」を知っていただく活動を行いました。倒木を利用した授産製品を販売会でご利用者様と販売をすることで就労機会や社会参加の機会を設けることができ、授産製品の利益は工賃向上にもつながりました。また、実際に授産製品が売れていく姿を見ることで製造意欲の向上に繋がっている様子が見受けられました。展示会に参加・開催することで来場していただいた人たちに障がい理解・相互理解の促進、そして檜田地区の現状を知っていただく機会を作ることができました。

⑥ 今後の展望

新型コロナウイルスの影響で販売会や展示会が延期・中止になり授産製品の販売や復興に関する啓発ができなかったため、今後も継続的に販売会や展示会への参加や開催を行い、周辺の福祉事業所とともに「natural lab」をはじめとした販売会を行いご利用

者様の高地位向上や就労機会の提供を図っていききたいと思います。また、ご利用者様から「自分達のしている活動を多くの方に知ってもらいたい。」という意見もありましたので、商店街や企業と連携を行い販路の拡大を行いながら檜田地区の復興の現状を知っていただき、障がい理解・相互理解の更なる促進や復興支援の啓発へと繋げていききたいと思います。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	150,000	工具、消耗品費	50,732	
自己資金	19,679	広告作成費	5,727	
		焼印費	17,800	
		コンサルタント費	92,000	
		展示会出店費	1,500	
		行事保険費	1,920	
計	169,679	計	169,679	

18 支 部 名： 桜の園

- ① 実施日： 第1回 令和2年11月19日（木） 第2回 令和3年3月18日（木）
- ② 実施場所： 社会福祉法人路交館 桜の園の複数の部屋に分散して受講
- ③ 対象者： 1回目は支援者対象の講義、2回目は利用者対象の歯磨き指導と支援者への実技指導

④ 実施概要・目的

「口腔衛生指導」の実施

1回目：守口市歯科医師会に依頼して口腔衛生の基本的な知識をわかりやすく解説していただく。人間の口や喉の構造から咀嚼や嚥下機能を学んだ。食前で、舌や顔の筋肉だけでなく体全体を使った運動の大切さや、食事介助時のスプーンの使い方などもあった。また、姿勢についても具体的なポイントを学び、日々の業務に非常に有益であった。最後に今日の内容をわかりやすく解説された書籍の紹介もいただいた。

2 回目：守口市歯科医師会の先生と歯科衛生士による実技指導。

前半は利用者向けで主に自分で歯を磨く方に動画を見ながら指導をうけた。飛沫が飛ばないように折り紙で作った歯ブラシでの模擬演習。更に医学的見地からの利用者様と一緒にできる食前体操を教えてもらい、職員共々実践できた。

後半は食事後のブラッシング指導で、特殊な歯ブラシを使った方法など紹介があった。また全介助の利用者様のブラッシングに関する質疑応答では専門的なアドバイスが有益であった。

⑤ 成 果

各講習を受けた後、スタッフで内容を話し合い、利用者全員のアセスメントを見直して歯磨きのやり方などの個々の支援内容をマニュアル作成し再認識できた。

食後のブラッシング指導だけでなく、食前の準備に関する事も今の支援を充実できる内容が学べた。

⑥ 今後の展望

年齢に応じた支援ができるように定期的なアセスメントの実施と日々の支援内容見直しによりフレキシブルな支援をしていきたい。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	150,000	講師料	60,000	
自己資金	881	暗幕一式・ビデオカメラ等	81,521	
		変換アダプター	1,880	
		参考書籍購入	7,480	
計	150,881	計	150,881	

19 支 部 名： やすらぎの苑 中津

① 実 施 日： 令和2年10月30日（金） 令和3年3月29日（月）

② 実施場所： 豊崎西公園

③ 対 象 者： 利用者19名

④ 実施概要・目的

「コミュニケーション訓練及び懇親会」の開催

夏におこなう予定であったがコロナ禍で延期、感染予防徹底のため、2回に分けて実施。両日とも天気の良い日に感染予防のため場所を公園にてコミュニケーション訓練を行った。久しぶりの集まりにご利用者の方もとても楽しそうな表情でした。ご自身で絵付けしたフリスビーやボーリングピンを持ってかぼちゃのモニュメントに向かってフリスビーを投げます。見事成功したら中から妖精(?)が出てきて記念撮影を行いました。

緊急事態が明けた3月29日には、豊崎西公園にてグループに分けてクイズを行いました。フィールドクイズに早く正解したグループからくじが引けるので、参加された利用者の方は、楽しみながらクイズを解く姿が見受けられました。

⑤ 成 果

このたびはコロナ禍でなかなか外出できない、コミュニケーションさえ気を使いがらとる環境の中、外に出て感染予防に徹底しながらもご利用者の皆さんが、自然に笑顔が溢れた日になりました。

⑥ 今後の展望

今後も感染予防に徹底しながら、このような機会も大切にしていきたいと思っています。このたびは、助成の程ありがとうございました。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	70,000	レクリエーション経費	67,604	
自己資金	688	飲食代	3,084	
計	70,688	計	70,688	

20 支 部 名： こども発達支援センターS u n

① 実 施 日： 令和2年7月1日(水)から令和3年3月末日

② 実施場所： こども発達支援センターS u n (富田林市栗ヶ池町)

③ 対 象 者： こども発達支援センター土曜日グループ療育利用者23名

④ 実施概要・目的

「タブレット機器でのオンライン学習・オンラインコミュニティ」参加の取り組み

こども発達支援センターS u nの土曜日療育は、今年度6グループで活動していました。今年度はコロナウイルス感染症拡大のためイベント、外出、調理などグループ活動を通じてP D C Aサイクル（計画・実行・評価・改善）、社会性、自発性、協調性など学ぶ場が限定的となりました。タブレットなどI C T（情報通信技術）機器を使うことで限られた活動に広がりを持たせることができるのではないかと、また就職や大学生活など将来の生活に選択肢が広がるきっかけとなるのではないかと考えました。

各グループに必要なスキルを広げるための一つの方法としてタブレットを使用し経験していくことを目的としました。

各グループ活動内容		
グループ	活動内容	詳 細
A	動画作成	CuteCUT、ibisPaintなどのアプリの使用（8/8, 10/3） 当事業所の紹介動画の作成（11/7, 1/9） 動画作成に詳しい方を講師にお招きし、実況中継動画の作成方法を体験（9/5）
B	写真展の計画・実施	台風の影響で撮影会中止時にZoom会議での次回計画iPadを使用し写真撮影（11/7, 12/5） 写真展に向けてチラシの作成（1/9） 当日メンバーのシフト作成（2/6）写真展関西（3/27）
C	パーティー企画	メニューの検索、費用の計算（9/12, 12/12） 店舗までのマップ検索（3/6） パーティーのタイムスケジュールを計画（役割分担など）
D	イラスト作成・劇キャラクター設定・卒業パーティー企画	アプリを使用し、自作のイラスト作成（1/16） 自作のキャラクター設定を行い、紹介動画を作成（12/12） 卒業パーティーの企画、カラオケアプリの使用（3/13） 司会進行のセリフメモなど（3/13）
E	動く車の製作	参考動画の視聴（1/23） 必要な部品検索、伝道者の配線方法検索など（2/20）
F	虫研究	当事業団施設内の山で昆虫を探し撮影 収集した昆虫を詳しく調べ研究・図鑑アプリ作成（3/20）

⑤ 成 果

- ・サポート協会の助成金を受けることが出来たことでタブレットを購入することができました。より身近になったタブレットの使用により子どもたちがより主体的に活動内容に必要な情報を検索し、興味を追求することが可能となりました。

- ・講師を招き、撮影や編集技術のポイント、背景や色味など技術を学ぶことができ、オリジナル動画を作成することができました。

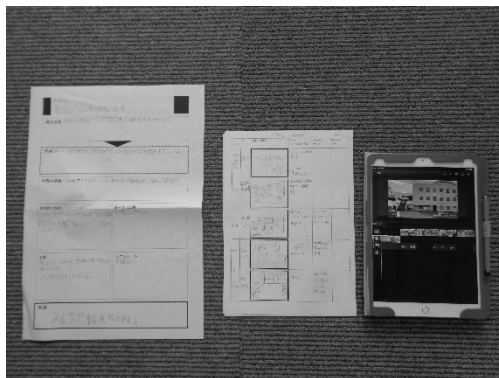
- ・緊急事態宣言下で度々集まることが難しい場合、タブレットの使い方をマスターすることで活動計画の話し合いをZ o o mでおこなう経験ができました。

- ・写真展開催の実現に向けて資料の作成や写真編集、当日の役割分担やシフト作成などに活用することができました。

⑥ 今後の展望

子どもたちがタブレットなどのテクノロジーを当たり前を使いこなせるようになることで情報を得る技術、記録し活用する技術、自分の考えを表現する技術を身につけられるよう今後も活動の中で取り組んでいきたいと考えています。

現在の学校生活の中で、また将来子供たちが社会に出るために知識と経験を両輪として困難に立ち向かうための方法をより多く身につけることができるよう支援を継続して行きます。 この度は助成をいただきありがとうございました。



⑦ 収支報告

<収入>		<支出>		(円)
項目	金額	項目	金額	
助成金	70,000	タブレット購入費 (3台)	114,840	
自己資金	44,840			
計	114,840	計	114,840	

2 1 支 部 名： 住之江木の実園

- ① 実施日： 令和2年7月15日、8月19日、9月30日、10月21日

令和3年1月20日、3月24日 計6日間

- ② 実施場所： 住之江木の実園

- ③ 対象者： 生活支援員 18名前後

- ④ 実施概要・目的

「職員研修会（事業所内）」の実施

新型コロナウイルス感染症への感染防止に努めながらの「職員研修会（事業所内）」を実施した。 新任職員及びパートタイム職員を含む直接処遇職員の障がい者支援に関する知識の習得、意識の向上を図り、利用者（知的障がい者）一人ひとりの特性に応じた質の高い支援を行えるよう外部から講師を招き「障がい者虐待防止研修 虐待の早期発見（7/15、8/19）」、「対人援助職のメンタルヘルス（9/30）」、「福祉職の接遇・

マナー（10/21）」、「対人援助職のストレングス思考、リフレーミングについて考える（1/20）」、「個別支援計画とモニタリング（3/24）」というテーマで、広範囲に渡る内容の研修を年間通して6回、感染防止に努めながら事業所内で実施しました。

⑤ 成 果

研修では、様々なテーマに対してグループワークを行い、支援方法や考え方について話し合いました。日々の支援内容、業務を振り返ることで、課題を見つけ、解決方法や支援方法を職員間で共有することができました。

「障がい者虐待防止研修 虐待の早期発見」については、前年度に引き続き研修を実施しましたが、利用者一人ひとりの支援方法が違うため、研修前の虐待防止セルフチェックにおいて、その支援方法でよいのか疑問に感じる人が多い等の意見がありましたが、研修後は、疑問点を解決することができ、利用者の気持ちに配慮した声掛けを意識しておこなうことができるようになりました。利用者が興奮した際は、一人で抱えこまずに複数で対応する等、支援方法にも変化が見られました。

「個別支援計画とモニタリング」では、研修前に困っている点、質問等を聞き取り、研修にて解決方法や、支援にあたっての基本的な内容、目標の立て方等を学ぶことができました。

⑥ 今後の展望

本研修を活かし、常に利用者に寄り添った支援を行えるよう、引き続きサービスの向上に努めます。令和3年度も引き続き、障がい者支援に関する研修を実施し、直接処遇職員の知識の習得、意識の向上を図り、利用者支援の質の向上に繋げて行きたいと考えます。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	研修会外部委託費	198,000
自己資金	48,000		
計	198,000	計	198,000

2 2 支 部 名： わららか草部

- ① 実 施 日： 令和 2 年 7/3（事前打合せ）、7/28、8/11、8/25、9/8、9/29、10/13
10/27、11/10、11/24、令和 3 年 1/12、1/26、2/9、2/26、3/9 計 15 日間
基本 第 2、第 4 火曜日 午後 1 時から午後 3 時
- ② 実施場所： 社会福祉法人障友会 わららか草部
- ③ 対 象 者： ご利用者 2 名の支援について現場にて相談
- ④ 実施概要・目的

「コンサルテーション事業」の実施

約半数のご利用者が自閉症スペクトラムの診断を受けております。わららか草部では自閉症の特性に基づいた支援を行ってきましたが、私どもの力量のなさもあり、支援が滞ってしまうことがありました。今回、元堺市立御池台小学校の浅井 郁子氏にご協力いただき、自閉症の方への支援向上を目指す。また、外部講師が入ることによる対象となった 2 名のご利用者の担当グループ以外の職員への意識の感化を狙った。

ケース 1：A さん 25 歳 男性 療育手帳 A 区分 4

課題：活動の切り替えが難しい。自発的なコミュニケーションが難しい。

活動の切り替えには浅井先生からお借りしたアナログ時計を使用して、活動の終了を伝えてみたが、班内の壁掛のデジタル時計を見て時間の確認をすることが増えた。しかし次の活動に移るのにまだ支援者の声掛け（次の活動を伝える）が必要な状態である。自発的なコミュニケーションについては、コミュニケーションカードを使用し、他者に「承認を得る」というやり取りができるように取り組んだ。作業が終わったら、支援者に「できました」カードを渡す練習を開始。これについても支援者の声掛けがあればできるが、自発的にできるまでには至っていない。

ワークシステムの活用は理解できた様子。3 段ボックスの上から順に課題に取り組むのだが、最初は「上から下」が理解できなかった。3 段ボックスに上から①～③の番号をつけることで理解され、スムーズに取り組まれた。班として A さんに集中して取り組む時間を十分確保できていないので、今後も継続して特に自発的なコミュニケーションへの支援を進めていきたい。担当職員の感想としては、アセスメントの重要性を感じたこと、A さん以外のご利用者についてももっと深く知りたいという気持ちが芽生えたこと。

ケース 2：B さん 24 歳 女性 療育手帳 A 区分 5

課題：怒りのコントロールをすることが苦手、ご自宅での不調。

浅井先生にご本人の様子を見ていただき ADHD の傾向が強いのでは、とのご指摘を受けた。それによりご本人が安心できるアイテムの使用、また否定的な言葉がけを避けて自己肯定感を高める言葉がけを進めることとなった。安心グッズは小さなウサギのぬいぐるみをポケットに入れて過ごしていただき、イライラした際にぬいぐるみを握ることで不安を解消していった。また、イラストでストーリーをご本人に伝えぬいぐるみを使うことでより安心できるように支援をした。さらに、更衣室や会議室を利用し一人になれる場所を提供することにより怒りのコントロールを少しずつできるようになってきている。ご自宅での不調については、まず連絡帳への記載内容について検討した。ご本人は文字の理解があり連絡帳を読むことがあるので、連絡帳には肯定的なことのみを記載す

るようにした。お母様からの記載も同様にしていただき、ご本人についてマイナスな内容については電話などでご家族に伝えるようにした。

また、近所の子供の声にイライラすることがあるとのことなので、その際はヘッドホンで好きな音楽を聴く、安心グッズのうさぎを握るなどで調子を崩すことが減少した。わららかとご自宅でカレンダーを使ってスケジュールを提示したこともご本人の安心につながったと考えられる。

支援を進めていく中で、ご本人の体重について検討することがあり、浅井先生からストレスにならないような食事制限の提案があった。イラストでご本人に説明し、食事を減らすのではなくカロリーの少ない食べ物に変更することでご本人の満腹度・満足度が下がらないようにご家庭で取り組んでいただいた。担当支援員の感想として、ご家庭での様子や成育歴も支援のヒントになることがわかり、もっと知りたいと思った。またコミュニケーションの手段もいろいろあることを知ることができた。自閉症スペクトラムだけではなく、その他の障がいについても勉強していきたいと思ったとのこと。

⑤ 成 果

Aさんの支援はあまり進まず、今後も継続していく。ただ、担当支援員にアセスメントの重要性を身をもって感じてもらったことで今後の支援につながっていくと考える。Bさんはかなり安心して過ごせるようになった。ご本人を理解・肯定すること、ご家族と一緒に支援していくことを経験することができた。今回の取り組みについては月2回実施している職員会議でその都度報告・周知をおこなった。しかし、会議の場で他の職員からの質問や意見は少なく、他の職員への感化という部分では不十分だと感じている。

⑥ 今後の展望

うまくいったケース、支援が進まなかったケースそれぞれの要因（環境要因）を検証、見直しするとともに、2021 年度も継続して浅井先生に依頼し、利用者支援の向上を目指していく。2020 年度は報告の在り方、報告書の様式、他の職員のかかわり方について検討することなく進めてしまった。これらを整理しなおしたい。

全職員がご利用者をどこまで深く理解するのか、ご家族と一緒に支援をする必要性などを実感できるようにしたい。ご利用者が安全・安心に暮らせるようにこれからも支援したい。



⑦ 収支報告

<収入>

<支出>

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	講師謝礼等	167,056
自己資金	17,056		
計	167,056	計	167,056

Ⅱ 資 料

- 令和 2 年度支部活動等助成事業実施要項
- 令和 2 年度支部活動等助成事業実施支部一覧
- 大阪生活サポート協会の理念と事業

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会 令和2(2020)年度支部活動等助成事業実施要項

(助成事業の目的)

1. この事業は、一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会(以下、大阪生活サポート協会という。)定款に則り、知的障がい児者・自閉症児者(以下障がい児者という。)とその家族の生活の安定と福祉の増進に寄与することを目的とした「支部活動等」に対し助成を行う。

(定義)

2. 「支部活動等」とは、大阪生活サポート協会会員(生活サポート総合補償制度に加入する者)が所属する施設・事業所等(以下、支部という。)の実施する事業及び複数の支部等が実施する協働事業をいう。

(助成の対象)

3. 助成事業の申請は、大阪生活サポート協会会員の所属するすべての支部を対象とする。

(助成対象事業)

4. 各支部が行う、次の事業に対し助成を行う。
 - (1) 障がい児者の日常生活支援に関する事業
 - (2) 障がい児者の就労支援に関する事業
 - (3) 障がい児者の権利擁護に関する事業
 - (4) 障がい児者の文化・芸術・スポーツ、地域交流、地域貢献等の事業
 - (5) 障がい児者の支援に従事する者の人材育成に寄与する事業
 - (6) コンサルテーション事業
コンサルタントによる相談・助言・情報提供等
 - (7) 事業所の第三者評価受審に係る事業
第三者評価機関による事業評価の実施
 - (8) 防災に関する事業
防災に関する研修、防災士等資格取得に係る助成等
 - (9) 家族(保護者会・家族会等)と協働で行う家族支援活動〔例：家族対象の研修会・催し物の開催〕に関する事業 ※助成申請は支部を通じて行うこと
 - (10) その他目的を達成するために必要な事業

(選考基準)

5. 選考に際しては、次の各項を勘案します。
 - (1) 新規申請支部を優先する。
 - (2) 緊急性が高いと判断される事業
 - (3) 先駆的、独創的な事業で、その効果が期待される事業
 - (4) 継続的な活動により、その効果が期待される事業(研修会・地域交流・人材育成等)
 - (5) 日帰り旅行・宿泊訓練(旅行)については、企画内容を重視する。
 - (6) 施設・事業所等の補修、改修、備品購入等に関する費用は、原則として助成対象としない。

(助成対象期間)

6. 令和2年4月1日から令和3(2021)年3月31日までの間に行われる事業を対象とする。

(助成金の範囲)

7. 支部活動等に対する助成金は、毎年度ごとの予算額の範囲内とする。
 - (1) 支部活動等への助成は年度内1回限りとし、助成額については、
会員5人以下：7万円を上限、会員6人以上：15万円を上限とする。

- (2) 下記に示す地区ブロック単位で複数の支部が協働して事業を実施する場合は、事業内容・参加人数等を考慮し、30万円を上限として助成する。複数の地区ブロックが合同で実施する場合も可とする。
- (3) 地区ブロック単位あるいは複数の地区ブロックが事業を実施する場合は、大阪生活サポート協会との共催事業とする。
- ※ 地区ブロックとは「北摂、北河内、中河内、南河内、泉州、堺市、大阪市」である。
- (4) コンサルテーション事業・第三者評価受審については、1事業所15万円を上限とする。

(手続き)

8. 助成金申請に関する手続きは下記のとおりとする。
- (1) 申請する支部は、様式1-1号・1-2号にて大阪生活サポート協会理事長あてに申請書及び予算書を提出しなければならない。(郵送)
- (2) 事業実施した支部は事業終了後1ヶ月以内(厳守)に様式2-1号・2-2号により、事業報告書及び決算報告書を提出しなければならない。ただし、令和3年(2021)3月に事業実施した場合は、4月20日(厳守)までに報告書を提出しなければならない。
- (3) 事業実施前、あるいは途中において内容の変更がある場合は、様式1-1号・1-2号により変更箇所を明らかにし、再度提出しなければならない。
- (4) 手続きに関する実施要項・様式は、当大阪生活サポート協会ホームページに掲載(添付)している。(ダウンロード可能。)

(審査/結果通知)

9. 提出された申請書に基づき理事会で審査した後に、助成の可否について申請した支部に通知する。
- (1) 助成決定支部には、助成額及び事業報告書・決算報告書(様式2-1号・2-2号)等について、メールあるいは文書にて通知する。

(助成金の交付)

10. 事業終了後1ヶ月以内に提出された事業報告書・決算報告書を理事会で審査した結果、適切な執行と認めたときは、助成額の範囲内であれば実績額を令和2年4月末までに指定の口座に振り込むこととする。ただし、助成額を超える場合は、各支部等の自己資金で賄うものとする。

(申し込み締切日時)

11. この事業の申し込み期日は、令和2(2020)年8月28日(金)までとする。(当日消印有効。)

(その他留意事項)

12. 事業実施するに際して、以下の点に留意すること。
- (1) 事業実施に際しては、大阪生活サポート協会の助成事業であることを利用者・家族、関係者等に伝えるとともに、報告書に大阪生活サポート協会からの助成事業であることを明記した配布物や行事案内を、あるいは事業実施当日に表示されている状況(写真)を添付すること。
- (2) 大阪生活サポート協会からの助成事業であることを表示しない場合は、助成しないものとする。

附則 令和2年4月1日施行

～問い合わせ先・申請書類の提出先～

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
〒542-0012 大阪府中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館3F
TEL: 06-6764-6889 FAX: 06-6770-5988
E-mail: kyokai@osakasupport.or.jp

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
令和２年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

	法 人 名	支 部 名	令和２年度		加入 者数	令和２年度 支部活動等助成事業報告（概要）
			決定金額	実助成金額		
1	(社福) ユウの家	チャレンジハウスどんどん	100,000	100,000	13	「事業所内におけるコロナ感染予防対策」の実施 令和２年 10 月 1 日 事業所でもマスク着用・手指消毒・手洗い・検温・車両や備品消毒・密を避ける活動の配置を徹底しているが、食事の際にはどうしても向かい合わせに座らざるをえない環境がある。食事時にはマスクを外して話すこともあり、飛沫を予防したく透明パーテーションの設置を行った。成果として、透明パーテーションで食事の様子がうかがえ、飛沫予防ができるようになった。分割式で作っていたので、机配置が変形しても利用できる。
2	(NPO) サポートグループ はわはわの会	サポートグループ はわはわの会	70,000	70,000	5	「発電機の整備」 令和２年 10 月 1 日 災害時に当法人が地域のインフラとして機能を果たすため、その第 1 弾として発電機を購入・設置。実際に被災した場合に地域で生活されている医療的ケアを必要とする方々が継続して医療的ケアを受けられるよう、協力体制を地域の中で構築することを目指している。避難訓練時、地震が起こって停電した場合を想定し、普段医療的ケアを受けている方をモデルとして参加していただいて、発電機を実際に使用しながら医療的ケアをおこなうことで、被災した場合のイメージを持つことができた。
3	(社福) 八尾すずらん福祉会	ワーク・すずらん	70,000	70,000	1	「発電機の整備」 令和２年 10 月 9 日 災害時の備えとして発電機を設置し、八尾市と避難場所としての提携もしているのも、いざという時に電気が使えるようにしておく為、新しい発電機を購入。新しいものはエンジンもすぐにかかり、女性職員でも簡単に使えるのでとても良いものだと思う。また、ワット数も前回のものより大きいので、大量の電気が必要になっても対応が出来る。今回、購入させていただいた「発電機」を使用して、作業所の防災訓練などでも使用して誰でも使えるように練習をしていきたい。
4	(NPO) ネクスト	共生型放課後等 デイサービス はぐはぐ	67,000	67,000	5	「楽しく学ぶ性教育（Z o o m を使ったの講演会）」の開催 令和２年 10 月 9 日 正しい性についての知識を学ぶ機会を提供と、命の尊さを理解し、何でも話し合える家族関係の大事さがわかるを目的に実施。普段なら参加しにくいご家庭の方も、Z o o m というコンテンツを使う事で、お子様と一緒に見ていただけた。性教育は大切だという認識はたくさんの方からもっておられるが、どのように伝えていけばいいのかわからない結果、楽しく学べた・わかりやすかったとの感想をいただいた。
5	(社福) 風の会	風の会	150,000	150,000	8	「地域交流行事用デント・机」の購入 令和２年 11 月 18 日、12 月 15・25 日、令和３年 1 月 20 日 地域住民と施設利用者の「交わり」を深め地域の中での施設づくりを目指し施設をよく知っていただくため、バザー等を開催する際の簡易デント等を購入。お陰で周辺からもよく目立つ会場づくりができるようになりテーブルも受付、販売用と分けて使用することができた。以前と比べデントをたてることでイベントが大きく見え、遠くからでも周知でき、多くの方々に足を運んでいただいた。またデントのまわりに P O P 広告を貼って宣伝することで何を売っているのかもよくわかり雰囲気作りにも最適で、来られたお客様にも印象に残る会場設営ができ、次回はいつですかと声をかけていただいたり、大盛況でおこなうことができた。
6	(社福) 大阪聴覚 障害者福祉会	あいらぶ工房	100,000	100,000	16	「レクリエーション」の実施 令和２年 10 月 23 日 一泊旅行を企画していたが新型コロナウイルス流行のため、施設内行事（レクリエーション）に変更した。 重複障がいのある利用者同士、お互いに助け合い、交流を深め、感染症予防に努めながら、日本一周旅行をテーマに楽しい時間を過ごした。今回の行事で育まれた集団行動の力や互いに助け合う心、社会性を大切にし、今後の支援に繋げて行きたい。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
令和２年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

	法 人 名	支 部 名	令和２年度		加入 者数	令和２年度 支部活動等助成事業報告（概要）
			決定金額	実助成金額		
7	(社福) 北摂杉の子会	萩の杜	100,000	100,000	54	「北摂杉の子会ランチフェスタ 2020」の開催 令和 2 年 10 月 26 日 法人が所有する農園で採れた野菜を使い、「ランチフェスタ」を開催した。法人栄養士が献立を立案し農園産野菜を使った料理を通常の給食と差別化をはかるため、非日常的な弁当容器に盛り付け提供した。 非日常的な豪華なお弁当を召しあがって頂く事ができ、多くの方に喜ばれた。また、完成した弁当やご利用者の食風景を記事にして、法人全事業所に配布することで、関わって頂いた全ての方に感謝の気持ちを伝え、関係性向上につながった。コロナ禍でありながら、農園産物を活かした安全なイベントを、実施できた。
8	(NPO) リパティィ・のぞみ	てんとう虫	100,000	50,000	6	「クリスマス会に代わる食事会」の開催 令和 2 年 12 月 24 日 令和 2 年は新型コロナウイルス感染症の影響で軒並み年間行事が中止になったため、例年開催していた法人「クリスマス&三者懇親会」に代わって食事会を行い、利用者にクリスマス会の雰囲気を楽しんでいただいた。普段と違った企画で利用者の様子さんなど観察することができ、事業所職員のより一層の利用者支援に対しての団結を図ることができた。
9	(社福) バオバブ福祉会	えるで	100,000	100,000	34	「バオバブクリスマス会」の開催 令和 2 年 12 月 19 日 今年度は、コロナ禍の影響で、恒例の一泊旅行や地域との交流イベント、地域行事への出店など、楽しみにしていた様々な活動の中止を余儀なくされた。そんな中ではあるが、感染予防に配慮しながらコロナに負けることなく、楽しく元気にクリスマス会を行った。毎年、クリスマスランチはボランティアさんたちの手作りであったが、感染症対策の観点から今年は手作りしてもらえなかった。しかし、助成金があったおかげで、すべてをテイクアウトにすることができ、メンバーさん（利用者さん）達もピザやチキンをとても喜んでた。
10	(社福) 草の根共生会	蓮 II	77,000	77,000	6	「利用者の授産活動及び事業所の地域活動の促進につながる機器」の購入 令和 2 年 12 月 4 日 店舗に冷蔵ショーケースを購入、ドリンクの販売をおこなうことで、接客係の利用者も、新しい商品の説明などに欲を持つ機会となり、仕事に対して楽しみやモチベーションを持ってもらう。また多彩な商品で集客を狙い、利用者の給与の向上にもつなげ、そういった活動を、地域の方々にも知ってもらう、地域に根差した障害者の活動拠点としての基盤づくりをおこなうために設置。今までに比べて、より店舗らしくなり、利用者が「お店で働く」という実感を持つてもらえた。集客については短期では効果はわかりにくい面があるので、今後につなげたい。
11	(社福) 池田芽ばえ福祉会	東山作業所	100,000	100,000	26	「感染拡大防止対策・災害時避難対策」の実施 令和 2 年 12 月 24 日、令和 3 年 1 月 20・21 日 感染症の疑いのある利用者とは疾病時に医務室で静養しているが新型コロナウイルス流行時やノロウイルス流行時には発熱や嘔吐者が複数名発病するため、対応できるスペースの確保を行った。新型コロナウイルスの疑いや濃厚接触者の疑いがある際に集団感染拡大防止の観点から一時的に収容するシェルトー、簡易ベッド、簡易トイレの整備をおこない安心して静養できる個室を確保することができた。
12	(NPO) ダ・カー歩	ダ・カー歩	150,000	133,567	8	「慰労会」の開催 令和 2 年 11 月 13・20 日 障がい者のコミュニケーション能力の向上の為 毎年、年末に利用者と職員全員で慰労会をおこなっており、例年であればレストランでバイキング形式にて開催予定であったが、本年度は新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、広い会場を貸し切りにし、お弁当形式にて開催予定であったが、やはりそれでも色々不安な声もあったため、2 班に分かれ 2 日間で野外にて開催可能なバーベキューに変更した。伸び伸びと食事や広場での遊びに楽しい時間を過ごすことができた。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
令和２年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

	法 人 名	支 部 名	令和２年度		加入 者数	令和２年度 支部活動等助成事業報告（概要）
			決定金額	実助成金額		
13	(社福) コスモス	ふれあいの里かたくら	70,000	70,000	3	「防災備品（段ボール製パーテーション・災害用毛布）」の購入 令和２年 11 月 13.・14 日 今回災害時など緊急時に、医療的処置などでもできる空間の確保と体温調整が困難な利用者や地域の高齢者にも活用できることを目的に段ボール製パーテーション・災害用毛布を購入した。災害用毛布については、以前より体温調整が困難な利用者がいることや、利用者からは「寒い時の避難が不安」との声もあったが、備蓄していることを伝えると安心した様子であった。段ボール製パーテーションは組み立ても簡単に短時間で出来上がるので職員会議等を利用し、順次、職員間で伝達をおこない、災害時には活用できるように備えておきたい。
14	(社福) 恵生会	四季の森	100,000	100,000	36	「施設内にて気分転換を図る食事提供」の実施 令和３年 3 月 18 日 コロナ禍において施設内での楽しみとして、ランチとキッチンカーの２部編成で企画した。１部は北海道フェア、ランチとしてラム肉丼、じゃがバター、コーンスープ、夕張メロンゼリーを提供した。２部はキッチンカーに来ていただきクレープとドリンクの提供をした。コロナウイルスの流行において思い通り外出が出来ない日が続く中、感染リスクを最小限に抑えた企画ができ良かった。また、日頃、うかがえざる事のできない利用者の様子や仕草を発見することができた。 今後も、よりリフレッシュできる機会を提供できるよう努めていきたい。
15	(NPO) いちばん星	いちばん星	70,000	70,000	1	「地域交流会」の開催 令和２年 12 月～令和３年 3 月 19 日 地域住民との交流会を企画したが、コロナ禍の中、規模を小さくして実施。また、交流会とは別に地域住民宅を回り、記念品の配布を行い交流を図った。住民宅を１件、１件訪問したことで、作業所の存在を知ってもらえ、顔を覚えていただき隣がいのある方が地域にいたることがごく普通であること、何かあっても作業所がすぐに対処できる体制であることを理解していただく良い機会となった。交流会では双方の信頼関係を深めることができた。まずは身近にいる障がいのある方を認知してもらえることが、全体の障がい者理解に繋がりが、理解啓発の役割を果たしていくことに繋がると感じた。
16	(社福) さん・すまいる	さん・すまいる	150,000	131,143	8	「さん・すまいる祭」の開催 令和３年 3 月 20 日 コロナ感染拡大に伴い、昨年は中止。今年度も地域の関係機関との共催での地域祭の予定であったが緊急事態宣言の為、地域住民との交流会を企画したが、コロナ禍の中、規模を小さくして実施。形態を変えたことで自分達で模擬店準備も行い、焼きそば・ペピーカーステラ・おむすび・ホットドッグ作りに取り組めた。チケットでそれぞれがコーナーに行き欲しいものを選び、共同で作る取り組みと自分で選ぶ取り組みの両方を体験することができた。また、地域からも自粛生活が続いて楽しみが減っている中、祭りの開催を喜んでいただいた。
17	(社福) 友達福祉会	友達の里	150,000	150,000	22	「ブランディングとマーケティング」の実施 令和２年 9 月～令和３年 3 月 工賃向上コンサルティングと協議して「natural lab」のブランド化と授産製品の企画マーケティング戦略の立案をしていただき、授産製品の web サイト (https://natural-lab.iimdofree.com/) を立ち上げて「natural lab」を知っていただく活動を行った。倒木を利用した授産製品を販売会で利用者と販売をすることで就労機会や社会参加の機会を設けることができ、授産製品の利益は工賃向上にもつながった。また、実際に授産製品が売れていく姿を見ることで製造意欲の向上に繋がっている様子が見受けられた。この取り組みを通じて、障がい理解・相互理解の更なる促進や復興支援の啓発へと繋がっていきたいと思います。
18	(社福) 路交館	桜の園	150,000	150,000	36	「口腔衛生指導」の実施 令和３年 11 月 19 日、令和３年 3 月 18 日 ２回目は守口市歯科医師会に依頼して口腔衛生の基本的な知識をわかりやすく解説していただき、人間の口や喉の構造から咀嚼や嚥下機能を学んだ。２回目は守口市歯科医師会の先生と歯科衛生士の実技指導を実施。またアトバイス等も受けた。 各講習を受けた後、スタッフで内容を話し合い、利用者全員のアセスメントを見直して歯磨きのやり方などの個々の支援内容をマニュアル作成し再認識できた。食後のブラッシング指導だけでなく、食前の準備に関する事も今の支援を充実できる内容が学べた。今後も、年齢に応じた支援ができるように定期的なアセスメントの実施と日々の支援内容見直しによりフレキシブルな支援をしていきたい。

一般社団法人大阪知的障害児者生活サポート協会
令和２年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

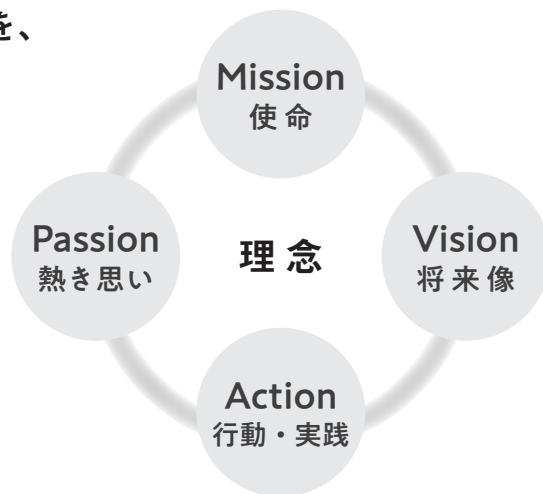
	法 人 名	支 部 名	令和２年度		加入 者数	令和２年度 支部活動等助成事業報告（概要）
			決定金額	実助成金額		
19	(合同会社) 美ノ倉	やすらぎの苑 中津	70,000	70,000	1	「コミュニケーション訓練及び懇親会」の開催 令和３年１０月３０日、令和３年３月２９日 夏におこなう予定であったがコロナ禍で延期、感染予防徹底のため、２回に分けて実施。感染予防のため場所を公園としコミュニケーション訓練を行った。久しぶりの集まりに利用者の方とても楽しそうな表情であった。利用者自身で絵付けしたフリスビーやボールリングズピンを利用して楽しんだ。緊急事態が明けた３月２９日には、グループに分かれてクイズを行い、フィードバックに早く正解したグループからくじが引けるので、参加された利用者の方は、楽しみながらクイズを解く姿が見受けられました。コミュニケーションさえ気を使わないがとる環境の中、外に出て感染予防に徹底しながらも利用者が、自然に笑顔が溢れた日になった。
20	(社福) 大阪府 障害者福祉事業団	こども発達支援センター Sun	70,000	70,000	1	「タブレット機器でのオンライン学習・オンラインコミュニティ」参加の取り組み 令和２年７月１日～令和３年３月末日 今年度はコロナウイルス感染症拡大のためイベント、外出、調理などグループ活動を通じて PDCA（計画・実行・評価・改善）サイクル、社会性、自覚性、協調性など学ぶ場が限定的となった。タブレットなど ICT（情報通信技術）機器を使うことで限られた活動の中、より広がりを持たせることができるのではないかと、また就職や大学生活など将来の生活に選択肢が広がるきっかけとなるのではないかと考えた。タブレットの使用により子どもたちがより主体的に活動内容に必要な情報を検索し、興味を追求することが可能となった。今後も活動の中で取り組んでいきたい。
21	(社福) いわき学園	住之江木の実園	150,000	150,000	9	「職員研修会（事業所内）」の実施 令和２年７月１５日、８月１９日、９月３０日、１０月２１日、令和３年１月２０日、３月２４日 計６日間 外部から講師を招き、新任職員及びパートタイム職員を含む直接処遇職員の障がい者支援に関する知識の習得、意識の向上を図り、利用者（知的障がい者）一人ひとりの特性に応じた質の高い支援を行えるよう広範囲に渡る内容の研修を年間通して６回、感染防止に努めながら事業所内で実施した。研修では、様々なテーマに対してグループワークを行い、支援方法や考え方について話し合いを実施。日々の支援内容、業務を振り返ることで、課題を見つけ、解決方法や支援方法を職員間で共有することができた。
22	(社福) 障友会	わららか草部	150,000	150,000	3 4	「コンサルテーション事業」の実施 令和２年７月３日、７月２８日、８月１１日、８月２５日、９月８日、９月２９日、１０月１３日、１０月２７日、１１月１０日、１１月２４日、令和３年１月１２日、１月２６日、２月９日、２月２６日、３月９日 計１５日間 利用者の約半数が自閉症スペクトラムの診断を受けている。今回、外部から講師を招き、利用者の更なる生活の質の向上と職員の支援力の向上の為、コンサルテーション事業を実施した。２名の利用者の支援を通じて、自閉症スペクトラムの特性や支援の在り方など基本的なことから、具体的な支援方法についてその都度、助言をいただいた。 また今回の取り組みについては月２回の職員会議でその都度支援について報告・周知を行い、担当職員以外にも利用者支援について再考してもらう良い機会となった。

理念

知的障がいのある方が「輝いて生きること」を支援します

知的障がい児者・自閉症児者、家族のくらしを、
各種の事業と補償制度で支えます

大阪知的障害児者生活サポート協会は、
全国知的障害児者生活サポート協会と連
携し、助け合うという互助の精神を柱に、
知的障がい児者・自閉症児者の皆さまを
かけがえのない存在として捉え、より豊
かな生活が送れるよう支援しています。



事業

支援に係る事業

その人らしく「生きること」を支援

- 日常生活支援
- 就労生活支援
- 権利擁護
- スポーツ振興 等

支部活動等助成事業

支部・地区別ブロック活動の促進

大阪生活サポート協会に入会する支部（施設・事業所等）及び
地区別ブロックが大阪生活サポート協会の目的に適った事業を
実施する場合に助成しています。
令和2年度は22支部へ助成しました。

表現活動支援事業

支部を利用されている方、地域で暮らしておられる方が絵画、
手芸、粘土などの作品を発表する機会をつくっています。

支援者のサポート

人材育成

- 調査研究
- 研修会の開催
- その他

補償制度

AIG 普通傷害保険

大阪生活サポート協会にご入会いただくと補償制度をご利用い
ただけます。

■生活サポート総合補償制度

引受保険会社：AIG 損害保険株式会社

保険代理店：ジェイアイシーウエスト株式会社



令和2年度 支部活動等助成事業報告書

令和3（2021）年7月 発行

発行人 安本 伊佐子

発 行 一般社団法人 大阪知的障害児者生活サポート協会
(大阪生活サポート協会)

〒542-0012 大阪府中央区谷町7丁目4番15号

大阪府社会福祉会館内

TEL：06-6764-6889 FAX：06-6770-5988

E-mail：kyokai@osakasupport.or.jp

URL：https://www.osakasupport.or.jp

協力 ハンドレッドラボ株式会社 <https://labohan.com>
